

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『 優しく笑顔で、 その人らしく、 家庭的な雰囲気の中で、 地域との交流を交えながら 生活支援』を掲げており、独自に作り上げたものになっている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全体会議や毎朝の申送り・フロア会議等において、理念に基き職員それぞれ理念の実践を目指し日々努力している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念は玄関に掲示しており、ご家族には理解して頂いている。また、夏祭りなど地域の方との開催・ボランティアの受入れ等を通じて理念の浸透を図っているが、まだ浸透しているとは言えない。		地域の方のボランティアは増えているものの、今後より一層交流の場を増やし、地域の方に理解して頂けるよう働きかけて行きたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームが老健・ケアハウスの敷地内に併設されていることもあり、散歩の際に挨拶をする程度とどまっているが、散歩などで公園に立ち寄った際に地元の方との交流を図れることもある。		ビルの中にあるため制約を受けるが、気軽に立ち寄って頂けるよう環境整備等に充実を図り、地域の人々に理解して頂けるよう今後も努力して行きたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員としての活動までには至っていないが、運営推進会議・夏祭り・ボランティア受入れ等を通じて地元ボランティア・保育園児等との交流を図っている。また、近隣の公共施設でのイベント等には可能な範囲で参加するよう取り組んでいる。		今後も、地元ボランティアの積極的な受入れを継続し、地域の一員として交流が図れるよう努力したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員間での話し合いは特に行っていないが、推進会議等で話題には挙がっており、随時介護相談・見学等は受入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を機に全員が取り組み、評価結果を基に環境整備や記録の整備等の改善に取り組んでいる。		改善策には全職員が関わっており、今後も計画的に行いたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には住民代表(区長)・市担当者(介護保険係及び分包括支援センター係)・利用者ご家族に参加を依頼し、意見交換を行っている。昨年の外部評価の結果についても報告している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には必ず参加頂いているが、市担当者へ相談する事例は発生しておらず、現在のところ運営推進会議以外での行き来はない。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	当ホーム入所以前より権利擁護に関する制度を利用されている方があるものの、一部職員が制度を知っているにとどまっている。しかし、一部職員については外部研修に参加した経緯もある。		全職員が一応の理解ができるよう地域福祉権利擁護事業や成年後見制度等について勉強会等を開催し、理解を深められるよう努めたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に関する学習機会を持ったことはないが、虐待や身体拘束等の事例が発生しないよう、常に配慮している。また、併設老健において勉強会が開催され、当ホーム職員も参加している。		当ホームでは虐待・拘束等の事例は発生していないが、今後も職員が学習する機会は設けたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際、十分な説明を行い理解納得を頂いている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>特別な機会は設けていないが、日常生活の中で利用者全員に尋ねるも、今のところ不満・苦情等の回答はない。また、ご家族の面会の際にも、意見・苦情等を聞き取るよう心掛けている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>日常生活の様子や状況の報告は、ご家族の面会の際常に行うようにしている。金銭管理については、毎月の利用料請求書発送時に各利用者の小遣い現金出納帳の写しを同封し、確認して頂いている。職員の異動については、面会来訪時に口頭にて報告している。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置している。また、年1回家族会を開催しており、そこで挙がった意見については可能な限り反映させている。ご家族の面会来訪時にも意見を聴き取り、運営に反映させている。</p>		<p>前回同様、無記名アンケートの実施を検討したい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回行う職員全体会議やフロア会議・朝礼等において、職員の意見や提案を聞き、反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>ホームの行事及び入退所・相談等の場合、職員の勤務・配置には柔軟に取り組んでいる。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職があった際、各ユニットの質を均等にするため異動を行っている。しかし、日頃から全ての職員がどちらのユニットにも対応する体制をとっているため、異動があった際の利用者への影響は少ないと思われる。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>性別や年齢等を理由に採用対象外にすることはしない。また、職員には各自の得意分野での能力発揮をしてもらっている。社会参加や自己実現の権利に関しては、それらが可能となるよう勤務日(休日)の希望には可能な限応じている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>人権啓発に関する勉強や講習の機会は特に設けていない。日々の現場で、利用者の人権を尊重することを話し合っている。職員に気になる言動が見られた場合には、本人を交え検討の場を設けている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>生涯学習センター等での研修及び個人のステップアップのための研修や、隣接老健での勉強会への参加を促している。</p>		<p>研修派遣や勉強会開催は、昨年に比べ若干の進捗はあるものの充実しているとは言えず、今後も研修への派遣や参加の条件を整えば参加させたい。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流・連携の必要性は認識しているが、積極的には取り組めていない。しかし、事例は少ないが、近隣のグループホーム職員の見学受入れ等は行っている。</p>		<p>今後、同業者との交流・ネットワークについては取り組んでいきたい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>特に取り組んではいないが、職員の悩みを聞いたり、アドバイスを行うことは常々行っており、それに伴う勤務調整を行うこともある。また職員同士で食事に行くなど個別にストレス軽減に取り組んでいるようである。</p>		<p>今後も職員の悩みの相談には応じていく。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>各々職員の努力や実績、勤務状況は把握している。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>インテーク段階で、本人の性格や現状に至るまでの経緯の聞き取りを行い、戸惑い・不安等の訴えがある場合や、そのような変化が見られればその都度対応し、不安解消に向けて傾聴し受けとめる努力をしている。</p>		
26	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>インテーク段階で、性格・生活歴等現状に至るまでの経緯などをご家族から聞き取り、安心できる環境を作れるよう努力している。また、ご家族の面会の折に現状を報告し、相談や要望を受けようとしている。</p>		
27	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>当ホームの利用に繋がらなくても、法人の内外を問わず必要なサービスを紹介したり、アドバイスをしよう努めている。</p>		
28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>一日体験入所の制度を設けており、近隣に居住されている場合には幾度か遊びに来て頂き、不安を取り除く等の方法を探っており、導入には慎重に対応している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>調理を職員と一緒にいたり、共に作業することで利用者から学んだり、発見することは多く見られる。また、レクリエーション活動や好きな作業を通じて時間を共有し、寄り添い、喜怒哀楽を共に感じるにより、お互いに支えあう関係を築けるよう努力している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者ご家族の一員に加えて頂くつもりで介護に当っており、共に本人を支えるという立場を共有し、より良い関係を築けるよう努めている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者ご家族の関係を踏まえ、両者の関係がより良いものとなるよう支援に努めている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同じ敷地内のケアハウスや老健通所リハ利用から入所者された方については、ケアハウスや老健への訪問に同行し、旧知の方との交流が図れるよう支援している。また、積極的な支援はできていないが、馴染みの人や場所との関係が持続できるよう努めている。		ご家族・ご友人からの電話や訪問は自由であり、墓参りを兼ね家族同伴で地元へ外出されることもあるが、馴染みの場への外出には限界があり、十分には対応できていない。今後も可能な限り対応できるよう配慮したい。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者が孤立しないよう声かけ・見守りを行い、利用者同士が交流を持て、その場が和むよう支援している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	当ホーム退所後でも、転居先を訪問したり、ご家族に近況を伺う等関係を保っている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者各自の希望や意向を把握し、その人らしい生活を送れるよう努めている。本人の意思や希望が把握困難な場合は、ご家族への聞き取りを基にできるだけ意向に沿えるよう心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所以前の生活歴や生活環境・介護サービスの利用の経緯は、本人・ご家族・担当ケアマネージャー等から情報を得ている。不十分な点があれば、利用開始後にもその都度聞き取りを行っている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者日一人ひとりがその人らしく生活していくため、具体的な課題・目標を設定している。また、状態の変化に注意して総合的な把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族との会話の中から意向や希望を探り、職員全体で検討を行い介護計画に反映させている。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね3ヶ月毎のモニタリングを行い、計画を見直している。状態に変化が見られる場合には、緊急に担当者会議を開き、変化に応じた計画を新たに作成し、ご家族に了承した上で介護計画としている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の業務で知り得た情報は経過記録に残し、職員全体で共有しご家族へも伝えている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	可能な限り利用者本人や家族の要望には応じており、迅速・柔軟な対応ができるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホームや法人での行事に際、ボランティアの協力を頂くことがある。地域の小中学校の体験学習や福祉系専門学校・大学のボランティア及び地域のボランティアの受入れも行っており、交流場を広げている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、他のサービス事業者のサービスは利用していない。他の施設や医療機関の利用が予定されている場合には、事前に話し合いサービス利用に関する支援を行っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議への参加は常々願っているが、権利擁護や総合的・長期的なケアマネジメント等では協働したことはない。		今後、必要に応じ協力を仰ぎたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの協力医療機関を利用していることが多いが、入所時にご家族の同意を頂いている。特にご家族や本人の希望がある場合は、希望される医療機関の受診をすることもある。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関の医師にも認知症に対する理解は頂いており、受診の際には職員が必ず同行し、診断・治療の説明を受けている。また、一部利用者に関しては、精神科医師に2週間に1回の往診を頂いており、連携を図っている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在、当ホームには看護師の職員配置はなく、外部機関との契約も行っていない。必要に応じ、併設老健看護師の協力を仰ぐことはあるが、基本的には掛かり付け病院の指示を頂くようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>利用者が入院した場合には、衣料の補充・面会・ご家族との連絡・医師からの病状説明を受ける等の対応を行い、本人・ご家族が安心して入院・治療ができるよう支援している。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>利用者の重度化が進んだ場合、医療機関入院や法人内の老健・特養への入所へ移行する旨を入所前に家族へ説明、了承頂いている。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>当ホームでは終末期での対応を想定していないため、身体・精神状態の重度化時や終末期の対応については、医療機関への入院や老健・特養への入所等の方策をとる旨入所時に説明している。対象となる利用者がある場合は、時間をかけてご家族への説明を行い、移動が予定される施設の職員と連携を図り、スムーズな移動が可能となるよう支援している。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入居の際は、事前に顔合わせを行ったりホームへ来て頂く等の方法を取っている。退所の際は、入院等の緊急な場合を除き、転居先の施設の職員や家族と情報交換を行い、環境変化によるダメージが極力少なくなうよう努めている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>声掛けや対応は慎重に行っており、プライドを損ねるような対応は慎んでいる。記録についても、ご家族への公開を念頭に置き、配慮した記述を心掛けている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者各人の体調や期限に応じて、いくつかの選択肢を設け、自己決定ができるよう支援している。また、参加を促す声掛けをすることもあるが、基本的には希望しないことは行わないよう努めている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間・入浴時間等最低限の決まり事はあるが、それ以外の事は、一人ひとりのペースを大切に日中の活動は家族同様あまり制限せずに、自由に過ごせる様支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	整髪については、ほとんどの方は提携している移動美容室を利用され、カット・パーマ等の注文は自身で希望されている。また、衣類の購入などは、訪問販売(移動売店)を利用したり、近隣の販売店に職員が同行する等して支援している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食のメニューの掲示を行っており、食事の準備は利用者各々に能力に合わせ役割分担をして行って頂いている。後片付けは希望者が多いため交代制にし、職員と一緒にしている。食材の買い物外出については、週1回程度にとどまっている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、喫煙・飲酒をされる方はいない。飲み物に関しては、好みの聞き取りを行っている。おやつについては、入居者の嗜好を考慮し対応している。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの状況に合わせ、排泄パターンを把握して誘導を行い対応している。誘導を行うことにより、安易に紙パンツやオムツで対応をすることがないよう取り組み、支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各自の状態を把握し、ゆっくり自分のペースで入浴を楽しんで頂いている。隔日で入浴して頂いているが、希望される時には対応し、拒否される時には無理強いせず本人の意思に任せている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	状況に応じ、午睡時間や休息が取れるよう支援している。但し、昼夜逆転等夜間の睡眠に悪影響を与える場合にはこの限りではない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者加自の能力や好みに配慮し、家事や園芸等日々の暮らしに楽しみが持てるよう支援している。個別に趣味の囲碁・散歩の支援も行っている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が金銭を所持することで不穏言動が発生する可能性が高いため、ご家族に了承を頂き基本的には職員が管理するようにしている。利用者自身の買い物がある場合は、レジでの支払いの際自分の支払いを自分で行って頂くよう支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候が良い時期には、散歩・ドライブ等外出する機会を設けている。散歩は近くの公園まで行っており、長距離の歩行が困難な方については、1階玄関前にて外気浴を実施している。また、週1回ではあるが、食材の買い物の同行もお願いしている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年数回利用者全員でバスハイクで葡萄狩りや食事出かけているが、日頃は数名のグループ単位でドライブに出ることが多い。ご家族との外出はできる限り願っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	隣接ケアハウス内に集配ポストがあり、本人の希望により、家族・友人との手紙のやり取りが自由に行えるよう支援している。また、電話の希望にもいつでも応じている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・友人の来訪は夜間以外はいつでも気軽に来て頂き、本人の居室や共有スペースでゆっくり過ごして頂けるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては全員が理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関への施錠はしていないが、ホームが建物の3階に位置しており、無断外出を企図される方もいらっしゃるため、屋外に出る際には危険が伴う。そのためエレベーターにはキーロック・ベランダにはセンサーを設置している。		日中は居室の窓のセンサーは解除している。一部の方を除き、利用者の安全性・家族の希望を重視し、現状のままの方法をとる方針である。但し、現状に変化があった場合には前向きに考えたい。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に本人のプライバシーには配慮しており、所在や様子も十分に把握し、安全な生活を送って頂くよう配慮している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の身体状況・精神状況に応じて、各居室の家具やベッドの位置を変更したり危険が伴うカミソリやハサミ・爪切り等は預かっている。また、歯磨き粉やハンドクリーム等については、間違えたりする方がいらっしゃるため、備え置きは各々に応じて最小限にどめている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	特段の勉強会は行っていないが、朝礼や会議・フロア会議等で、事故防止に対する取り組みや対処法について話し合っている。防災避難訓練については、年2回、消防署員立ち合いの下に訓練を行っている。		勉強会や外部の外部の講習会への参加など、事故防止に関する知識習得に取り組みたい。
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故の際には、マニュアルを作成しており、隣接老健の看護師に応援を受ける体制をとっている。また、隣接老健にはAEDが設置されており、消防署員による講習にも参加している。		急変や事故の際、隣接老健の看護師の応援を仰ぐ体制をとっているが、応急手当や初期対応の訓練を行っていききたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防災避難訓練は行っているが、近隣に住宅が少ないこともあり、地域の協力を得る状況にない。(緊急の際の協力要請は行っている。)		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時に、家族に対してリスクに関する説明は十分に行っている。また、心身の状況に応じてその都度家族に対して説明を行い、職員間でも常に対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、起床時に全利用者のバイタルチェックを行っている。常に状態観察を行い、日中・夜間の体調変化や異常について必ず職員間で共有し、随時バイタルチェック等を行い対応を検討するよう心掛けている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効用や副作用等の詳細は理解していないが、服薬指導書には目を通し、一応の確認・理解はしている。特に処方変更時には処方通りに服用しているか、服用後状態が変化していないか等に留意している。服薬の支援については職員が幾重にも確認するように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や影響については理解をしており、食べ物・飲み物についても配慮している。また、水分補給・運動・食材選定などにも配慮している。		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	残渣物がひどい方や口臭がある方については、毎食後口腔ケアを行っている。それ以外の方についても、口腔内の清潔には励行しており、特に義歯使用の方については毎食後の口腔ケア支援を行っている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食食事量は記録しており、職員間でも確認し情報を共有している。朝食・夕食は隣接老の厨房から管理栄養士が献立を作成したのももらっている。水分摂取については、特に記録は残していないが、食事時・10時・15時・入浴後に水分摂取を促している。常に食堂に白湯を用意し、いつでも飲むよう準備している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策マニュアルを作成、実行している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所・厨房器具の衛生管理は常に行っている(漂白剤洗浄)。食材も消費期限をチェックし、安全な食材の使用を心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	4階建ての建物の中にあり、玄関・周囲には施設的な印象が残るが、利用者の作品や季節ごとに職員がディスプレイを考えて、季節感や家庭的な雰囲気を保てるように配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	高速道路や国道・鉄道が近隣を通っているが、過剰な音や光が気になるような状態ではない。共用部分は植物や季節感が出るような利用者・職員の飾り付け・作品を配置し工夫している。		
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部には十分なスペースが確保されており、状況に応じて思い思いに過ごせる様になっている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に持ち込む物には特に制限を設けておらず、使い慣れた調度品を用意して頂き、利用者各々が居心地良く過ごせるよう工夫している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝や清掃時に換気を行っている。また、換気や空調設備は設置しており、常に稼働させている。温度調節は各居室・共用部に温度計を置き利用者の状況や体調・希望・訴えに応じて調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分の手すりなどの他、居室内の利用者の状態やADLに合わせ家具や調度品の配置などに工夫して、自立した生活ができるよう配慮している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの案内表示は分かり易く大きく表示している。衣類の整理については利用者の意向を聞きながら職員と一緒にを行い、混乱や失敗を防ぐよう支援している。また、ご自分でもできるよう、タンスに分類表示している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	各居室は全てベランダに面しており、センサーは設置してあるものの、出入りは自由となっている。ベランダにはプランターを置いて花や野菜を栽培しており、利用者に水遣り等を行っている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ おむつや紙パンツを極力使用しないよう取り組んでいる。
(本人の状態に応じて、終日安心パンツ(布パンツ)、あるいは日中は安心パンツ使用・夜間のみ紙パンツ+尿取りパッドの使用など。)
- ・ 気候の良い時期は、バスハイクやドライブ・散歩など折に触れ外出し、外の雰囲気を感じることができるよう配慮している。
- ・ 当ホームでは終末期の介護は想定していないが、法人内に老健(80床)特養(160床・50床)を持っており、利用者の状態に応じて施設を移動することが可能となっている。